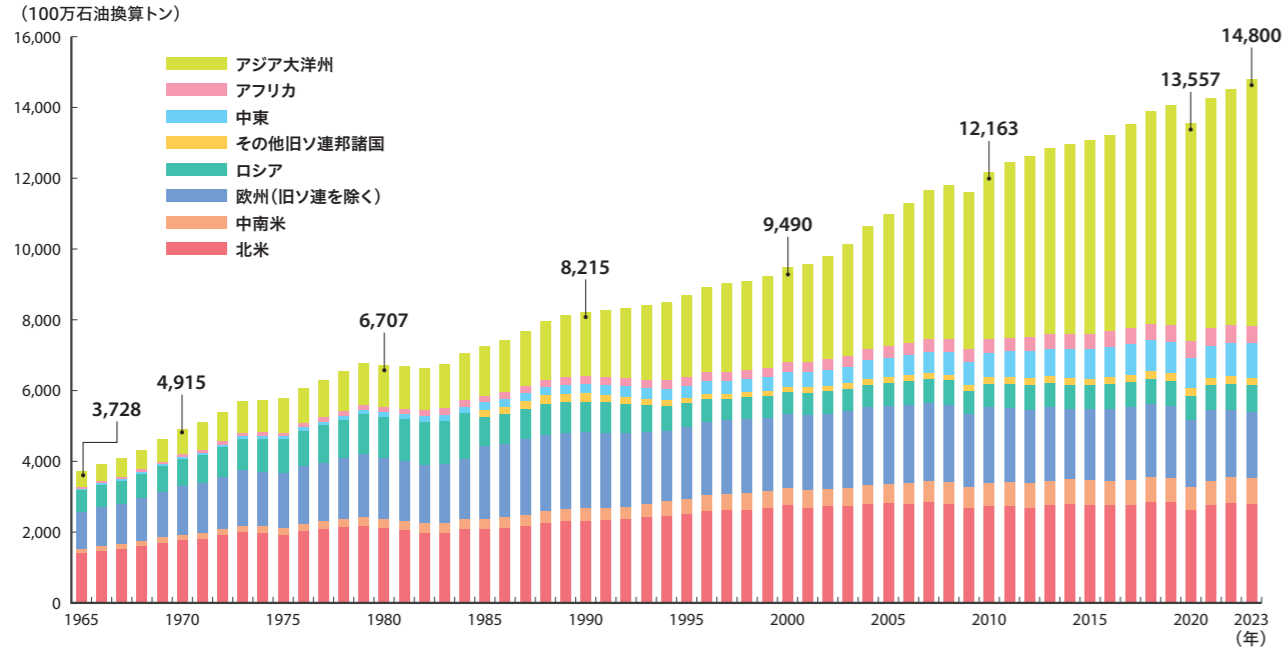


# 02 日本のエネルギー消費量の推移を 見てみよう

## エネルギー消費量は世界中で高まっている

世界のエネルギー消費の推移（地域別、一次エネルギー消費）



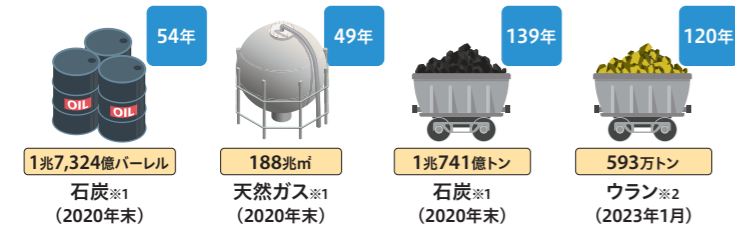
(注1)1984年以前の「ロシア」には、その他旧ソ連諸国を含む。(注2)1985年以降の「欧州」には、バルト3国(リトアニア・ラトビア・エストニア)を含む。  
出典:資源エネルギー庁「エネルギー動向(2025年6月版)」をもとに作成

上のグラフは世界のエネルギー消費量の推移を表しています。世界のエネルギー消費は、経済成長とともに増加してきました。石油換算で、1965年に約37億トンだったエネルギー消費量が、2023年には148億トンとなり、約4倍になっているのがわかります。2000年代以降は先進国における消費の伸びが鈍化する代わりに、中国やインド等を中心にアジアにおける消費の伸びが顕著となっています。

今後も開発途上国の経済が成長することで、これらの国におけるエネルギー消費の増加が予想されています。現在、エネルギーの主流となっている石炭や石油などの化石燃料は無限に存在するわけではありません。今後エネルギー消費の増加が予測されている開発途上国では限りある資源の有効な活用が重要であり、日本を含む先進国にはそれを支援していくことが求められています。

## エネルギー資源には限りがある

世界のエネルギー資源確認埋蔵量と可採年数



(注)可採年数=確認可採埋蔵量/年間生産量  
ウランの確認可採埋蔵量は費用130ドル/kgU未満  
出典:※1「2025 Energy Institute Statistical Review of World Energy」  
※2「Uranium 2024:Resources, Production and Demand」をもとに作成

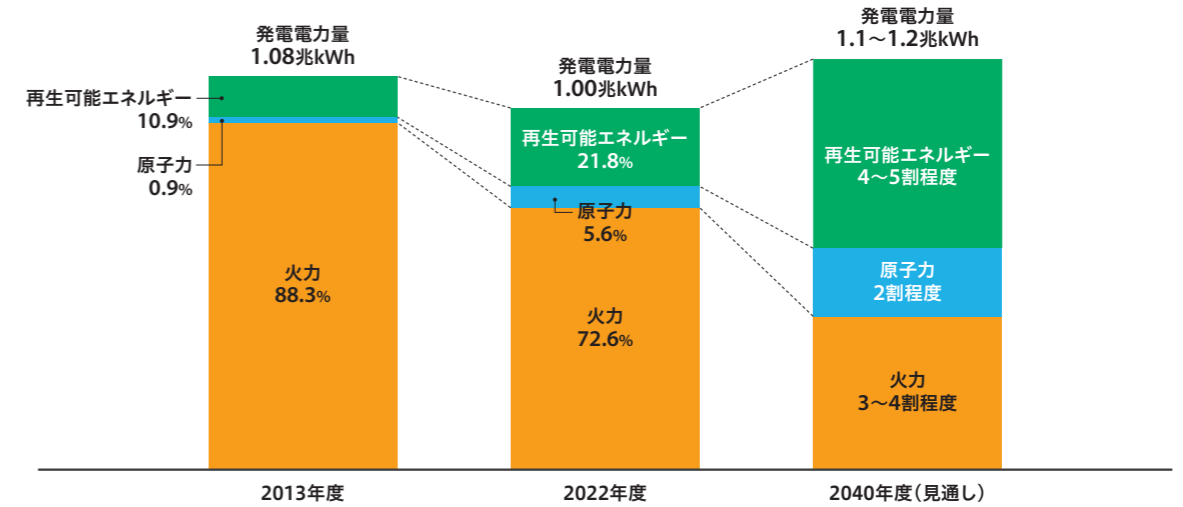
現在の技術・経済条件のもとで採掘が可能だと確認されている資源の量を「確認可採埋蔵量」といい、これを年間の生産量で割った値を「可採年数」とよんでいます。

なお、エネルギー資源の埋蔵量や生産量が変れば、可採年数もそれに応じて変動します。

## 日本の将来の電力需要はどのようになるだろう

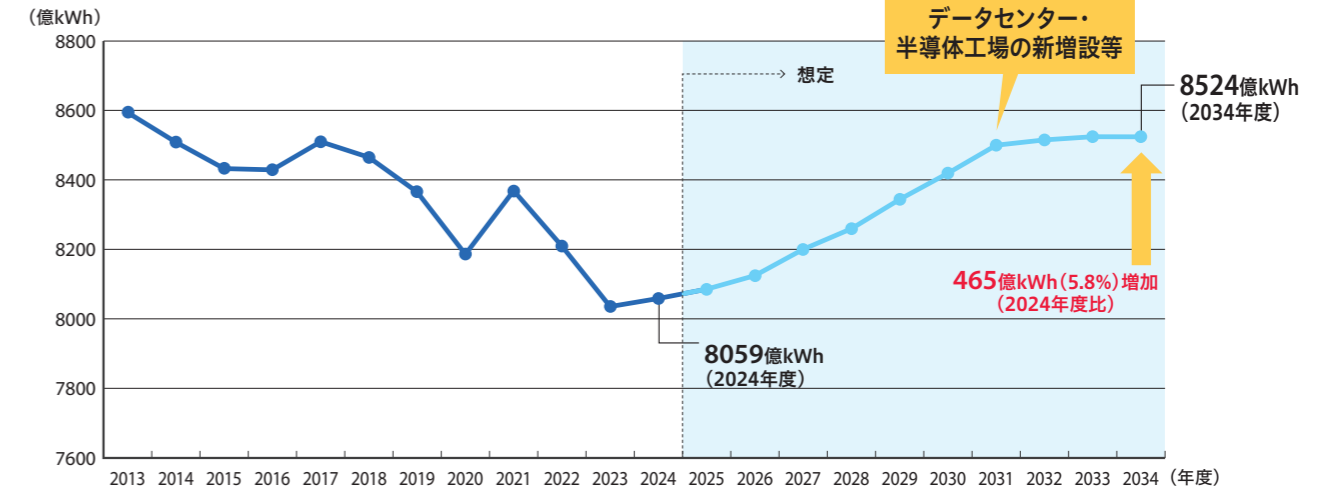
日本のエネルギー需給の見通し(イメージ)

日本はエネルギー資源の多くを海外に依存していますが、将来の電力需要は増加が見込まれています。



出典:資源エネルギー庁「第7次エネルギー基本計画の概要」をもとに作成

需要電力量(全国合計)の想定



出典:資源エネルギー庁「日本のエネルギー エネルギーの今を知る10の質問(2025年3月発行)」

## デジタル化の進展による電力需要

日本の電力需要は、人口減少や節電・省エネなどによって減少傾向にあり、将来の電力需要もそのまま減少していくと考えられていました。しかし、近年における人工知能(AI)の登場により、その状況は大きく変わりつつあります。

今後は、AIの普及に伴うデータセンターや半導体工場の増設による電力需要の大幅な増加が見込まれており、省エネなどの進展を考慮してもなお、日本全体の電力需要は増えていくとされています。